

個人17

受 令和 5 年 11 月 22 日
付 午前・午後 2 時 55 分

一般質問（代表・個人） 通告書

令和 5 年 11 月 22 日

尾張旭市議会議長 殿

氏 名 さかえ章演

尾張旭市議会会議規則第 50 条第 1 項の規定により 12 月定例会において別紙のとおり質問したいので通知します。

なお、質問事項の件数及び質問方法は、下記のとおりです。

記

1 質問事項 3 件

2 質問方法

	1 回目 一括質問、一括答弁 再質問以降 質問事項（大項目）ごとの一問一答
<input type="radio"/>	1 回目から 質問事項（大項目）ごとの一問一答

選択する方法に○を付す。



質 問 事 項 No. 1 - 1	尾張旭市歯科保健事業の拡充について
要 旨	<p>歯科健診は乳幼児や小中高までは、法律で義務化されているが、働く世代では自ら受診しない限り受ける機会がない。</p> <p>現在、自治体の努力義務となっている40歳から70歳までの10歳刻みの年齢に行う「歯周疾患検診」は約8割の市町村で実施されているが、厚労省は健康増進事業として「歯周疾患検診」の対象年齢を20歳、30歳に拡大し、予算化概算要求もなされている。</p> <p>政府が「歯周疾患検診」に力を入れるのは、30歳以上の実に80%以上が歯周病にかかっているとされていて、中度から重度の歯周病を患う患者の割合は、年齢とともに増加し45歳以上では5割前後に及び、歯を失う原因はもとより、動脈硬化や糖尿病など全身の病気や認知症にもつながる恐れがあるからだ。</p> <p>また、要介護度でも歯が10本未満になると要介護となるリスクは15倍、20本以上歯があれば要介護のリスクは15分の1とも言われる。</p> <p>歯科健診の重要性から、本来定期的に受けることが望ましいが、働く世代の方は仕事が忙しい、面倒などの理由で、受診率は高くないのが現状だ。</p> <p>歯と口の健康を保つことは、市民の健康増進はもとより、全身疾患の予防や要介護度の上昇を抑制し、社会保障費の上昇を抑制するためにもなくてはならないと認識している。</p> <p>そこで、以下2点について伺う。</p> <p>(1) 成人の歯科健診の節目健診について</p> <p>当市は、成人の歯科健診の節目健診の対象年齢は20歳、30歳と40歳から70歳までの5歳ごとだ。</p> <p>しかし、名古屋市や豊明市などは20歳から80歳まで5歳刻みで実施している自治体もある。節目健診の拡大を求めて以下5点に分け伺う。</p> <p>ア 歯科健診と健康増進に対する認識について</p> <p>イ 定期健診受診者と総医療費の関係について</p> <p>ウ 本市の節目健診の受診率について</p> <p>エ 県内の先進自治体の状況について</p> <p>オ 節目健診の拡大について (節目健診を拡大し25歳、35歳、75歳、80歳の追加を要望)</p>

※ 申し合わせ事項に留意する。

<p>質 問 事 項</p> <p>No. <u>2</u></p>	<p>带状疱疹予防接種の費用助成について</p>
<p>要 旨</p>	<p>带状疱疹予防接種の費用助成については、有効性が認められるワクチンであり、市議会でも接種費用の助成について、何度か取り上げられた経緯がある。</p> <p>当会派の「令和あさひ」は、去る10月31日に「令和6年度予算編成に伴う要望書」を柴田市長に手渡した折、9つの重点予算要望の内、1項目の「地域医療・福祉医療の充実」の中で、特に带状疱疹予防接種の費用助成を要望した。</p> <p>6月議会において、市長は、費用助成の必要性を感じており、助成の内容や開始時期も含め、瀬戸旭医師会や近隣市町とも連携を図りながら、費用の一部助成の実施に向け早急に調整を進めたいと答弁している。</p> <p>そこで、現時点での調整は、どの程度進捗しているか再度確認のため伺う。</p>

※ 申し合わせ事項に留意する。

質問事項 No. <u>3</u>	三郷駅前地区の市街地再開発事業による、本市の財政見通しについて
要 旨	<p>大阪万博などの大型事業が物価上昇に伴う資材価格や人件費の高騰で事業費が大幅に増加するというニュースもあり、事業費の捻出について議論がされている。</p> <p>本市の大事業である三郷駅前の再開発事業については、令和2年度の説明資料時よりも、今年度の事業計画策定時点で事業費が増加しており、現在もこうした物価上昇が続いていくことを大変心配している。</p> <p>本市も財政状況が厳しいところで、当事業を将来の欠かせない事業と位置づけ進めていこうということだが、市全体を見れば社会保障関係費はじめ、公共施設の老朽化への対応など、財政的な課題はいくつもある。</p> <p>当事業は9割近くの財源を市債で賄い、その他は公共施設整備基金の繰入力で賄う計画だが、施設計画の見通しによって、まだ市の負担が増えることも予想される。</p> <p>それに加えて、事業が完成した後の公共施設や駅前広場、道路などのランニングコストも継続的にかかる。</p> <p>こうした費用も加味して長期的な財政運営についても考えていく必要がある。</p> <p>そこで、3点に分け当事業の財政的な見通しについて伺う。</p> <p>(1) 事業の進捗状況について</p> <p>(2) 今後の予定について</p> <p>(3) 本市の長期的な財政に与える影響と対応について</p>

※ 申し合わせ事項に留意する。